

【資料】

薬師寺東塔「縁の瓦」里帰りの取組

平成25年5月に薬師寺東塔から県内小・中・高等学校名が刻まれた寄進銘瓦が発見されたことを受けて、信濃教育会では薬師寺東塔「縁の瓦」の里帰りに向けて取り組んでまいりました。その概要については下記のようになります。

昭和25年12月、奈良県国宝保存連盟会長、奈良県議会議長、民生部長、教育長の連名で「国宝保存学徒募金」の依頼があり、信濃教育会は県内小・中・高等学校長へ「国宝保存学徒募金斡旋の件」の文書を出して仲介の労をとりました。当時奈良県寺社間では、長野県内の修学旅行生徒のみごとな見学態度と事前学習の深さに対して高い評価があり、「最初に長野県の学徒の皆さんにお願いしよう」と全国に先駆けて募金の依頼があったのです。その呼びかけに応じて県内の学校からおよそ70万円（現在約2,000万円）の募金が直接奈良県国宝保存連盟に届けられました。

奈良県では、全国から寄せられた浄財と国庫補助金により法隆寺、薬師寺、東大寺、唐招提寺を含む15古社寺の保存修復が行われました。

時は流れ、薬師寺では平成21年より、110年ぶりに国宝三重塔（東塔）の解体修復が行なわれています。この解体修復に伴って寄進銘瓦（県内小・中・高校の校名が刻まれた屋根瓦）363枚が発見され、その内再び東塔に載ることができない不再用瓦は粉碎処分となることから（国宝の建造物の場合）、急ぎ信濃教育会は県内寄進銘瓦の該当校へアンケート調査をいたしました。その結果ほとんどの学校では「ぜひ学校にもどしていただき校内で保管・展示をしたい」という意向が強く示されました。この願いを受けて、平成25年度第4回臨時総会で「薬師寺東塔の瓦に関する決議（案）」が満場一致で決議されました。

その後3年間「縁の瓦（寄進銘瓦）」の里帰りに向けて取り組んでまいりました。

この度、この「縁の瓦」に関して、不再用瓦（再び東塔に載ることができない瓦）125枚の里帰りが実現いたしました。里帰り瓦の該当校が個々に薬師寺まで受け取りに出向く大変さを考え、信濃教育会が一括して受け取ることとその運搬費用を負担することを平成28年度第3回臨時総会で認めていただきました。

なお、この里帰り実現に関わっては、薬師寺様、奈良県教育委員会様の深いご理解と特別なお配慮があったことは申すまでもございません。

また「縁の瓦」の裏面写真は該当校及び関係校へデータとして贈られます。

（平成29年6月1日現在）